

9月報(2021年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

猪口神父さま、霊名記念のお祝いおめでとうございます！

8/15 (日) 聖母の被昇天。9:00
ミサ中に、猪口神父さまの霊名
のお祝いがありました。お祝い
の言葉や日曜学校・信者さんの
プレゼントをしました。神父さ
まの言葉もありました。



お祝いの言葉

協働部会 梅田理栄子

猪口神父様、霊名のお祝いおめでとうございます。神父様は昨日の8月14日に叙階後、8回目の霊名の記念日を迎えられました。霊名はマキシミアノ・マリア・コルベ。猪口神父様は、カトリック福山教会に主任司祭として着任され、福山教会では2回目の霊名の記念日です。新型コロナウイルスという前代未聞のウイルスが猛威をふるう混乱の中、猪口神父様は、この教会にやってこられました。昨年2020年4月に入り、皆でお祝いするはずの復活祭も中止。洗礼式も非公開。そして、地区で行う掃除も、定例委員会も中止となりました。集うことができない中、4月26日の日曜日より福山教会から9時ミサをオンラインで中継しますという連絡がメールで入ってきました。私たち信徒と猪口神父様の初めてのご対面は、何と！教会の聖堂ではなく、四角いモニターの中でした。パソコン、タブレット、スマートフォンの中で説教される猪口神父様とオンラインでのミサ。そして、ついに5月31日の日曜日より、人数制限を考慮した神父様とのリアルなミサが実現したのです。

猪口神父様のご紹介を改めて、振り返ってみましょう。神父様のフルネームは猪口大記様。鳥取市出身。1981年生まれ、誕生日は4月15日。現在は御園幼稚園の園長も兼務されています。司祭叙階は2014年4月。叙階式を迎えられて今年で8年目になります。2014年は広島県の幟町教会、三條教会、翠町教会、東広島教会、向原教会に協力司祭、司教秘書を任務されました。2015年からはイタリアに滞在されました。2017年は、山口県の宇部教会、北若山教会、高千帆教会で、助人司祭として、2018年には、岡山県の玉野教会で主任司祭として活動され、そして、2020年4月よりこの福山教会の主任司祭に着任されました。

霊名のマキシミアノ・マリア・コルベの聖人について簡単にお話しいたします。この方はポーランドのカトリック司祭で日本の長崎でも宣教活動されていた神父様です。アウシュビッツ、ビルケナウ強制収容所で餓死刑に選ばれた男性の身代わりとなったことで知られ、

「アウシュビッツの聖者」と呼ばれた方です。『無原罪の聖母の騎士』という本の出版をして宣教に力を入れた神父でした。コルベ神父様は1971年10月17日にパウロ6世によって列聖され、1982年10月10日に同国出身の教皇ヨハネ・パウロ2世によって列聖されました。お祝いのご挨拶の最後に、猪口神父様、いつもミサの中で、私達をお導き下さりありがとうございます。神父様はTシャツ姿がよくお似合いですね。教会に用事があって寄った時には、汗をかきかき大工仕事をされていることもあり、いつもエネルギッシュな神父様の印象があります。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

2021年8月15日 カトリック福山教会 信徒を代表してご挨拶の言葉にかえさせていただきます。

侍者デビューがありました。おめでとうございます！

コロナ禍の中、延び延びになっていた侍者デビューが8/8の9:00ミサでありました。新たにデビューしたのは、千種慧大君と大城シン君の二人。福山教会の宝です。これからも宜しくお願いします。



【福山空襲犠牲者追悼関連】

『フィリピンと日本に生きる～大城セイイチさんに聞く戦争と家族の歴史』 野田茂生



ここ数年、福山空襲の8月8日に、空襲のみならず、この福山の地と近代の戦争との関わりについて、さまざまな視点から紹介する機会をもたせていただいております。

今年は、わが福山教会の信徒で日系フィリピン人三世の大城セイイチさんに、彼のご先祖のことをうかがうことで、この問題を教会のみなさんとともに考えていただく場とさせていただきました。

大城セイイチさんは、1978年にフィリピン・ミンダナオ島ダバオ市に生まれました。そのお祖父さんである大城清さんが生ま





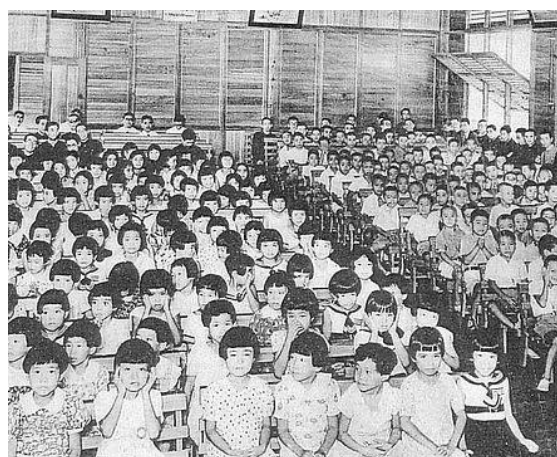
れたのは、1907年沖縄中部宜野座村松田というところでした。残念ながらいつダバオに渡って来たのかはわかりません。調べたところによると、1930年台のダバオは2万人を超える日本人が生活し、日本人街や13の日本人および日系人のための学校があったといひます。当時のフィリピンは、アメリカの植民下でしたが、ダバオには、日本とりわけ沖縄から農業や貿易等の仕事を求めてやって来る日本人が多かったようです。それほどの国際都市ダバオでしたが、太平洋戦争の勃発(1941)による日本軍による占領、続く日本の敗戦

(1945)によって、人々は数多くの悲劇に直面することになりました。清さんは、その戦争中の1943年に、フィリピン人女性リオネラ・エスピノーザさんと結婚しました。清さんは、当時軍人ということでした。沖縄から派兵されたものか、ダバオ現地で招集されたものかは、わかっていません。



翌1944年、長男のセイイチさん(話者であるセイイチさんと同名のお父さん)が生まれますが、清さんは、マラリアに罹り、沖縄に帰った、と記録にはあります。ただ、1944年は太平洋戦争終盤で、10月には日本の連合艦隊が全滅したとされるレイテ沖海戦もあり、海の航行は容易ではなかったと思われます。どうやって沖縄に帰還したのか、疑問が残るところではあります。

清さんは、翌1945年に沖縄戦に巻き込まれて家族とともに亡くなっています。記録には、その日付は6月19日、つまり、日本軍が組織的戦闘をやめた6月23日(現在の『沖縄慰霊の日』)のわずか4日前のことです。(もっとも、戦禍の中の出来事であり、実際はどうであったのかは不明です)



太平洋戦争に敗れたことにより、ダバオ付近では多くの日本人は、あるいは殺害され、あるいは山中に逃亡しました。アメリカは日本人を集め本国に強制送還したということですが、むろんすべての日本人ではありません。フィリピン人との間に生まれた日系人は、多くフィリピン国籍となり、現地にとどまることになりました。清さんの死は、エスピノーザさんに伝えられるはずもなく、日系2世のセイイチさんは、「ハポン、ハポン(スペイン語で「日本」の意)」と差別を受けて育ちました。エスピノーザさんは、やがてフィリピン人男性と再婚しました。

日本の経済発展や陰には友好のための努力もあったのでしよう(もっとも日本とフィリピンとの関係には、「ジャパゆきさん」と呼ばれる売春・性奴隷の問題が新たに生じますが、ここでは省きます)、1978年に三世であるわが大城セイイチさんが生まれる頃には、日系人への

差別も弱まっていました。セイイチさんは、沖縄に遺された清さんの親族を頼って沖縄、そして日本を訪ね、2001年から日本に住むようになりました。

太平洋戦争中における日本人の死亡者は、軍民あわせて約310万とされています。そのうちフィリピン戦での死亡者は約52万人(フィリピン人はそれに倍する約100万人)、沖縄戦では約20万人。大城さんの先祖は、太平洋戦争の中でもとりわけ大きな被害のあった二つの戦いを経験したのです。

大規模改修工事がほぼ終了した墓地で墓地ミサがありました 大塚睦雄



墓地の大規模改修工事の完了とは、ここ数年、猪の被害に対処するために墓地の周りに擁壁を築き、墓地を支えている石垣に亀裂が入っていたのでこれに対処する工事をし、最近大雨がよく降るので、側溝を増やし、新しい祭壇をつくってミサをするところを整備し、まだ完璧とはいえないまでも大規模な工事はほぼ終了したことをさします。「ほぼ」というのは、まだ気になる部分があるからです。7月の終わりの日曜日に朝7時から

墓地ミサがありました。大規模改修工事終了後初めてのミサでした。参加者は40名ほどで、皆さんこの墓地に近親者の墓がある人々です。

今年、長年福山から遠く離れて暮らしている信者の知人が帰省した際、話す機会があり、墓地の話になった時に、「墓地掃除がなつかしい。」と言っていました。確かに、私が小学生の頃は年に数回信者の全家庭から何人かは墓地掃除に参加していました。掃除といっても草取りが主でした。当時は、私の近親者の墓はなく、墓も全部で10基ぐらいしかなかったように思います。私自身は、掃除の後にもらえる菓子パンが目当てで行っていたと思います。その頃は教会の墓地を信者総出で掃除していたのでしょう。現在は、墓の数も信者の数も当時の何倍・何十倍にも増えて、草木の選定・清掃は専門の方に頼んでいるし、奉仕として掃除をしてくださる方も何人かいて、常に墓地はきれいな状態になっています。そのせいか、皆で掃除をすることもなくなり、「教会の墓地」であるという意識が薄れてきているのが少し気がかりです。

今回は10月の最後の日曜日に墓地ミサがあります。昨年からは10月は、朝7時は寒すぎるのと、高齢化で朝7時に参加するのは厳しいという意見があり、午後2時からになりました。午後2時のミサだと、普段参加されない方々も参加されており、その面でもよかったですと思いまし

た。墓地には福山教会の一時代を担った人々の墓があります。近親者の墓がなくても墓地ミサに参加して、完成形に近づいた墓地を見ていただきたいと思います。

【シリーズ2：教区代表者会議】

教区代表者会議「多文化共生分科会」に参加するにあたって 野田茂生

そもそも、教区代表者会議に格別の関心持っていたわけではありません。教区の大きな方向を決める上で大事な会議には違いないのだろうけれど、自分自身はそういう場に身を置くにふさわしい人間だとは思わないし、現場の人間としてあたふたしているのが性に合っていると思っていたからです。そこへ教会で誰よりも信頼している〇〇さんから、代議員を引き受けて欲しい旨の言葉を掛けられ、義理を重んじる日本人としては、断るわけにいかないじゃないですか。というわけで、分科会は私がかかわりを持っている問題から考えていくべくかでもしゃべる中身があるのは「多文化共生」以外にないかな、と考えました。おりしも、技能実習生グループの賃金・労働生活環境の取り組みが一定の成果を出し(犠牲も大きかったのですが)、新たに浮上してきた留学生△△さんの問題に頭を悩ませていた頃でした。自分がかかわってきたことを具体的に話し、同様に参加者からも話を聞くことが出来たら、私が参加する意味もあるかな、と今は考えています。

さて、8月8日・9日に、我が田中靖さんを座長として、第一回のズームによる会議がもたれました。私は9日に参加させていただいたのですが、二時間の会議は参加者各人の自己紹介でほぼ終わりました。その中で各人が考えていることをおおまかにまとめると、典礼を中心とした外国人信者との交流、外国人の生活・労働の問題、の二つに集約されるように思いました。私自身はもちろん後者の立場で発言しましたが、今後の会議の中で、相互に噛み合うような議論になればいいかな、と思います。

ところで、外国人とのかかわっていくことに躊躇しておられる方は少なくないと思います。こうすればいいというものはありません。心を開いて、一対一の関係、名前呼び合う関係を持つことです。〇〇人、△△の人たち、と呼ぶことから脱するようにしたいものです。そもそも私たちは、キリストによって結ばれた同じ民ではないですか！

南相馬便り㊼2021年8月 援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子

東日本大震災、大津波、東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故から10年と4カ月、少しずつ前に進んでいるのが感じられるようになってきました。私がここに来た2019年には、カリタス南相馬のベースに行き来する道々に見た草ぼうぼうの荒地も、小高に近い原町区では、最近急に農地が耕され、田んぼになって、心を潤してくれる里山の景色が取り戻されてきています。

写真は5月初めの田植え直後のものです



小高区は、これからという感じです。もちろん2015年ごろから稲の作付けを試み、数年かけて出荷にこぎつけたお米農家もありますが、まだまだ農地の多くは手つかずで草ぼうぼうです。それがここ最近、10年を迎えたからか、ブルドーザーやシャベルカーが唸り声をあげて土地をひっくり返しています。聞くところによると、先ず大豆を植えて、それを肥料にして土に混ぜ、肥えた土を作る。それを3年くらい繰り返してやっと水田になるのだそうです。



まだ荒地の小高の農地
(ブルドーザーで耕されつ

つです) 遠くの山が削られている



放射能汚染で除染のため
肥えた表土をはぎ取っ



て、山を崩した土を運んできたのでしょうか？あちこちの山が削り取られています。前にも書きましたが、山を崩したら風の道が変わって、気候も変わるのではないかと危惧しています。南相馬は東北でも温暖な気候ですが、風の強いのには驚きます。それも、震災後津波で防風林や海岸地域の村落が根こそぎ流されたので、太平洋から吹き付ける風は、以前より

強いのではないかとこれは私の勝手な考えですが、地元の方に話したら、「そうだよ、風の通り道になっているから強くなったよ」と。ともあれ、農業に関しては目に見えて風景が変わってくるのが嬉しいことです。

その反面、海岸地域は、津波で農地として利用できなくなったことと、住んでいた人が亡くなって住宅地としても復旧できなくなった地域には、広大な面積のソーラーパネルの海になっています。

不気味な感じのするソーラーの海は津波を経験した人にとって、あの日の海を思い出させるのです。あの日は黒い海が押し寄せてきたと。写真は村上地区の津波で何もなくなった地域一面に設置されているソーラーパネルです。お休みの日に良い場所で写真をとって出かけたのですが、何故か工事をしていて、よい場所で撮れませんでした。想像してみてください。あるいはカリタス南相馬のホームページで浪江



のソーラーの海の動画があるのでそれを見てくださいればよいと思います。画面の手前に自動車を止めて撮影しました。道路の右も左も一面パネルです。まだまだ工事続行中。

話を変えます。

7月末の土日月と南相馬最大の行事：野馬追が今年も神事だけとなりました。2年続けてこの行事に参加も観覧もできず、とても残念に思っています。でも7月に入って、朝6時ごろ原



町教会に行く途中にお馬さんに会います。文字通り「そこのけそこのけ お馬が通る」で車道を堂々と歩いています。信号が赤で止まるかと思いきや、ここはお馬様が優先とばかり、渡っていきました。もちろん騎手が左右確認して自動車が来ていなかったからだと思いますが・・・さすが歴史伝統の野馬追の地だけあると感心しました。その時間にいろんなところから騎馬が集まって、祭場で朝練をするようです。祭場は生垣で囲ってあるので見えないのが残念です。運よく生垣の木の間から馬の姿が見える時もありますが。馬と出会うのが嬉しいでした。今回はここまでとします。



9月・10月の行事予定

9 月		10 月	
5(日)	敬老会中止 国際聖体大会	10(日)	広島地区宣教司牧評議会
8(水)	聖マリアの誕生	15(金)	合同召命の祈り
20(月)	広島教区の日(山口徳山教会)	24(日)	備後協働体研修 24, 25 世界宣教の日
26(日)	世界難民移住移動者の日	31(日)	教会墓地ミサ 2時(雨天 11/8)

今月もコロナ感染症は世界で猛威を振るい、福山でも感染者数が 80 人とか 60 人とか過去最大の感染者数が報告されています。感染症専門家の人もとにかく自分の身は自分で守ることが一番、そのためには人との接触を出来るだけ少なくと訴えています。私たちもお互いに今まで以上に気を付けましょう。自宅にこもると気分もふさがちになりますが、そこは知恵をつかって自分なりに工夫し、日常の中に有難さを見出していきましょう。

月報委員